

校長室通信 10/2 49号

「当たり前」にご用心

表題を「**道德を考える月刊誌(ニューモラル 674号)**」で目にしました。「なるほど」と私自身を振り返ることができましたので、ここに紹介します。

「**足るを知る**」ことや「**感謝**」について考えるとき、まず思い起こしたいのは「**私たちの日常は人や社会とのつながりに支えられている**」という事実です。

例えば、私たちは普段の便利で快適な生活の中で「蛇口をひねれば水が出てくるのは当たり前」「停電の心配をすることもなく電氣を使えるのは当たり前」と思ってはないでしょうか。そうした生活の背後にある「**支えてくれている人たち**」の存在を、普段はあまり意識することがないように思います。

また、家族をはじめとした「いつも身近にいて、自分を支えてくれている人たち」の存在についても「**ありがたい**」などと思うことはないかもしれません。しかし私たちの生活は、いつもどこかで誰かに支えられているものです。その「**ありがたさ**」を忘れて、何事も「**当たり前**」と思い込んだとき、私たちの心の中で不満や不足が頭をもたげてくるのではないのでしょうか。

さて、6年生はこれから中学校への取り組みも始まります。先日は、教頭先生から保護者のみなさんに入学制度の説明もさせていただきました。さらに、志望校に向けて入試に取り組むお子さんもおられることでしょう。一つお願いです。大切な入試に向けての志願書等の記入については、「**当たり前**」ではなく、保護者の方から担任へ電話連絡や直接お伝えいただくようお願いいたします。担任も合格を願い真剣に記入していきますので、よろしくお願いします。

小体会練習が始まりました。結団式では校長から「**当たり前**をなくし感謝の気持ちで取り組もう」と話しました。修学旅行のテーマでもあった「**礼を尽くし、スマイル大作戦を成功させよう**」を小体会でも達成するよう話しました。

顔合わせ会では今村友星さんが、「**今年から大きく変わった小体会。僕たちは新しい歴史をつくる「第1回目の6年生」として大きな役割を担っているのだと思います。**」とすばらしいあいさつをしました。結果もですが、取り組みの過程での成長を期待しています。

